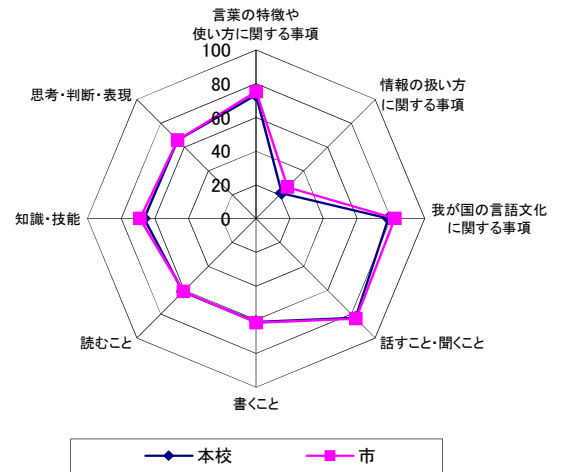


宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	21.4	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	83.3	83.9	84.2
	書くこと	61.3	61.7	64.5
	読むこと	61.3	60.9	61.0
観点別	知識・技能	66.3	68.8	70.3
	思考・判断・表現	65.7	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

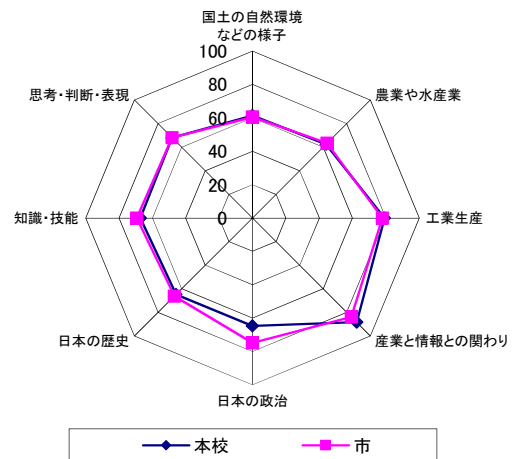
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文脈に沿った漢字を適切に使う問題への理解は良好である。 ○第6学年に担当されている漢字の理解は概ね良好である。 ●文と文との接続の関係の理解に課題が見られる。 ●第5学年に担当されている漢字の理解に課題が見られる。	・接続語を使った文作りを行い、接続語の使い方に慣れさせる。 ・漢字の学習については、該当学年の漢字の練習や復習に拘らず、朝の学習等を利用して、前学年のものも定期的に取り組みようとする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題については良好である。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことに課題が見られる。	・文章を読んだり書いたりする際には、情報と情報の関係を捉え、要点を押さえられるようにする。 ・無回答の児童が約2割と、資料を見て必要な情報を書き抜く問題に対して意欲的でない児童が見られたため、そのような学習活動を取り入れていき、慣れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●語句の由来に関心をもち、和語・漢語・外来語についての理解に課題が見られる。	・語句の由来や和語・漢語・外来語の違いを捉えられるよう、折に触れて授業の中で話す機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることは、良好である。 ●話の内容を捉えることに課題が見られる。	・話を聞く際には、要点を落とさず、話の順序や文の構成に気を付けながら聞く習慣を身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○指定された長さで書いたり、自分の意見とその理由を明確に書いたりすることは、良好である。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことに課題が見られる。	・資料の内容を正しく理解し、自分の意見とその理由を書いたり、指定された条件で表現したりする活動を意図的に設定していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○登場人物に心情について、描写を基に捉えることについては、良好である。 ●文章全体の構成を捉えることに課題が見られる。	・単元のねらいを明確にして学習を進める。 ・説明文では、指示語の示す内容や段落同士の関係について正しく捉えることで、学習内容を理解できるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.4	60.5	65.8
	農業や水産業	62.5	63.3	66.0
	工業生産	79.2	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	88.4	83.8	76.6
	日本の政治	64.7	74.9	74.1
	日本の歴史	64.7	66.3	68.3
観点別	知識・技能	67.2	69.3	71.4
	思考・判断・表現	68.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

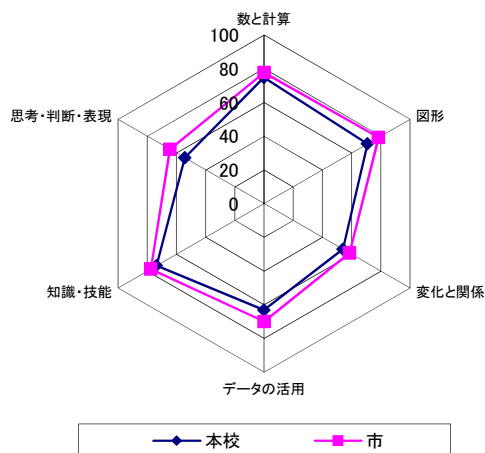
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は61.4ポイントで市の平均を0.9ポイント上回っている。</p> <p>○日本周辺の海洋名についての設問では、正答率が75.0ポイントで市の平均よりやや高い。</p> <p>●季節風の理解をもとに、気候の特色を雨温図から読み取る設問は、正答率が50.0%であり、市の平均より低い。季節風への理解に加え、図から物事を読み取る力に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の気候については、雨温図を見比べ、地域ごとの共通点や差異点について言葉や文章で説明する活動を増やすことで、それぞれの特徴に目を向け、学習内容の定着につなげる。 ・大陸や日本の周辺の海洋について、白地図や写真を利用しながら視覚的に捉えられるように、学習内容に応じて教材の工夫を行う。
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○輸入などの外国との関わりについての設問では、正答率が69.6%で市の平均を2.4ポイント上回っている。</p> <p>●日本の食料自給率についての設問では、正答率が35.7%で市の平均を下回っている。日本の自給率についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率について、身近なものとして捉えられていない様子が見られる。自給率のグラフを普通の生活と結び付けながら考える機会を意図的に設定することで、学習への意欲につながるような工夫を行う。 ・「品種改良」など基本的な用語の意味など基礎基本の定着が図られていない。重要語句の確認に加え、繰り返し学習ができるようにAIドリルの活用を進めていく。
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。</p> <p>○自動車工場での部品を再利用する目的についての設問では、正答率が94.6%で市の平均を上回っている。</p> <p>●日本の主な輸出品・輸入品の割合についての設問では、正答率が53.6%で市の平均を2.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車生産について、自動車会社が実施している工場見学などの機会を活用し、工業生産の中で行われている作業工程や部品等について、実感を通じた学びが展開できるような機会を設ける。 ・貿易については、国内における輸出品や輸入品に関する資料を読み取る場面を設け、その際に日本の工業生産の特徴について、自分の考えをまとめることができるような授業を構成する。
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均を4.6ポイント上回っている。</p> <p>○インターネットの使い方についての設問では、正答率が98.2%で、市の平均を5.3ポイント、全国の平均を12ポイント上回っている。</p> <p>○スーパーマーケットにおける情報活用の現状についての設問では、正答率が78.6%で、市の平均を3.4ポイント、全国の平均を11.5ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの使い方について、情報の収集、選択、比較、判断の方法についてを扱い、適切に活用できるように各授業の中で適宜指導する。また、学年に応じた情報モラルについての指導を継続し、情報を扱う上でのルールやきまりについての理解を深める。 ・既習内容を基にして、情報化社会によって変化している身の回りのものの現状や課題について調べたり、自分の考えをまとめる機会を設ける。
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●平和主義についての設問では6.1ポイント、基本的人権の尊重についての設問では11.7ポイント、市の平均を下回っている。</p> <p>●租税の役割について資料を読み取る設問では7.2ポイント、議会政治について資料をもとに考え表現する設問では15.5ポイント、市の平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活の様々なことがらが日本国憲法の3つの基本原理に基づいていることや、立法・行政・司法の三権や議会の政治の果たす役割等について、折にふれて指導し、内容を理解できるようにする。 ・各学年の実態に応じて、新聞やウェブニュース等を活用する場を設け、身近な話題から政治への関心を高められるようにする。 ・AIドリルや演習問題等を適宜活用し、基本的な知識の定着を図れるようにする。
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○豊臣秀吉の政策の理解についての設問では4.4ポイント、業績の理解についての設問では9.2ポイント、市の平均を上回っている。</p> <p>●鎌倉幕府の政治の理解についての設問では1ポイント、雪舟についての設問では17.9ポイント、市の平均を下回っている。</p> <p>●鎖国への理解についての設問では、市の平均を6.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が日本の歴史に興味をもてるような資料や教材を意図的に活用し、学習意欲の向上を図れるようにする。 ・調べ学習を効果的に取り入れ、児童が課題について探究し、主体的に知識を広げ深められるようにする。 ・情報を適切に読み取り、調べたことをまとめる活動を通して、知識の定着を図る。 ・単元によって知識の定着に差が見られるため、授業の振り返りにおいて、学習した「キーワード」を基に自分で情報を整理したり、自分の考えを表現したりする機会を設定する。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.8	77.7	78.6
	図形	70.9	78.4	74.4
	変化と関係	54.2	58.7	53.0
	データの活用	63.1	69.9	57.2
観点別	知識・技能	73.6	77.5	74.0
	思考・判断・表現	54.3	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

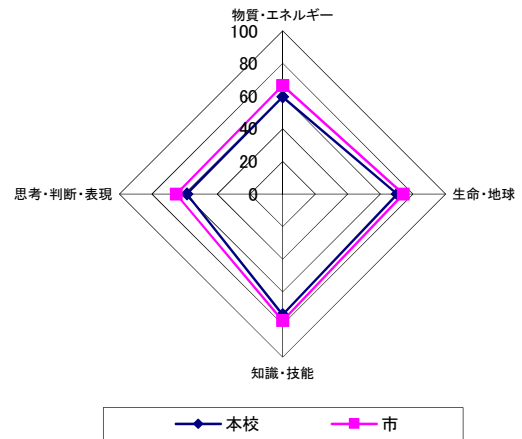
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○分数倍の比較量を求める計算問題の正答率は73.2%で、市の平均を上回っている。</p> <p>●文字式で文字の値を求める問題の正答率が60.7%と低く、市の平均を10.8ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習や宿題、算数の授業等で計算練習を繰り返し行い、基本的な計算力の定着に向けての指導を継続する。 児童の実態に合わせて、単元の目標の達成に向けた授業の展開や構成を工夫する。 習熟度別学習を推進し、個別指導の時間を多く確保する。
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●正多角形・合同・立体について理解し、多角形の内角の和の求め方を選ぶ問題の正答率は、15.5ポイント市の平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展開図が想像できるよう、具体物を取り入れ自分で操作する機会を多く設ける。 朝の時間等を有効活用して既習事項の復習プリントに取り組み、演習の時間を多く確保することで、図形の学習の基礎・基本の定着を図れるようにする。
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題の正答率は76.8%で、市の平均を10ポイント近く上回っている。</p> <p>●面積と人数の割合から混み具合を求める問題の正答率が39.3%と低く、市の平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題文から変化する2つの数量の関係を読み取り、表や図で表して整理し、問題の内容が理解できるようにする。混み具合の問題に課題が見られたため、単位量あたりの大きさでの比べ方を確実に理解できるよう、丁寧に指導する。
データの活用	<p>平均やデータの見方についての正答率は、全国平均よりは上回っている設問がほとんどだったが、どれも市の平均よりは低い。</p> <p>●平均から全体の量を推測する問題の正答率が37.5%と低く、市の平均を13ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 割合は正答率が高いため、引き続き問題演習を重ねながら対策をしていく。難易度の高い問題については、児童の状況に応じて、習熟度別学習を生かし、個に応じた指導の充実を図る。記述式の問題については、自分の言葉で説明する機会を多く設け、指導法を工夫する。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	59.4	66.5	66.3
	生命・地球	70.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	74.0	77.6	78.2
	思考・判断・表現	58.7	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○電磁石のはたらきが電流の大きさや導線の巻き数によることを理解し、おもちゃの車の走る距離を推測する設問の正答率は73.2%で、市の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>●ミウバンが水に溶ける量について、グラフから読み取る設問の平均正答率は37.5%で、市の平均を23.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験をする際には、実験の目的を明確にし、比較するための条件や方法を考えさせる場を設定した授業を展開する。 ・結果をまとめる活動ではまとめ方や図や表・グラフの読み取り方への理解を深められるように、授業の展開を工夫する。 ・実験結果から考察する際に、友達や他のグループと比較したり、考えを交流したりする場を設定することで、根拠を明確にして結論を導き出せるようにする。
生命・地球	<p>平均正答率は、70.2ポイントであり市の平均よりも低い。</p> <p>○天気の変化に関する「台風の動きを予想する」や「台風の被害」、「台風に応じてダムの水位を調整する」等の正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>●「植物のつくりやはたらき」における「くきの断面からそれぞれのはたらき」を問う設問の正答率は48.2%で、市の平均を14.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人や他の動物、植物のつくりについては、それぞれのはたらきについて仮説を基にした実験や観察を行うとともに、映像や模型、その他の資料を活用して自然の事物や現象の正確な理解へとつなげる。 ・「人」「動物・魚」「植物」のつくりや体のはたらきは、類似点と相違点がある。それぞれのはたらきや体のはたらきについて比較し、多面的に調べることで、環境に適応しながら生きていることを捉え、理解の定着につなげる。 ・学習内容に応じて「3日後の天気を予想すること」や「満月になるのはいつか」といった実生活に関係し、自分事として捉えられるような問いを用いる。

宇都宮市立岡本北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化	「宇都宮モデル」を意識した授業を構成するとともに、「授業改善チェックリスト」を定期的に活用し、授業力と学級経営力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	学習意欲や学習態度などについて、学校全体として児童の意識の向上が見られている。ただ、基本的な学習内容は十分に身に付いておらず、課題が多い。児童の意欲の高さを生かしつつ学力の定着を図れるよう、日頃の指導内容の工夫・見直しが必要である。 家庭での学習時間については、市の平均を上回っている学年が多い。家庭学習の量的な面だけでなく、質の向上を図ることで、学力向上に繋げていきたい。
言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「グループでの話し合いに進んで参加している」について、多くの学年で市の平均を上回っている。「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」、「ものごとを比べながら考えている」についても、多くの学年で市の平均を上回っている。児童が主体的に取り組める課題設定や言語活動の充実、安心感のある学級集団の醸成が図られている様子がうかがえる。 「新しく習ったことを繰り返し練習している」や「学習した内容を次の学習につなげることができる」について、すべての学年で市の平均を上回っている。児童の学びの自己調整力が向上している様子がうかがえる。
1人1台端末、ICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実	タブレット端末の日常的な利用を推進し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」、「パソコンを使って相手に分かりやすく自分の考えを伝えることができる」等、ICTの授業における活用に関する設問への肯定的回答は、学年間のばらつきが見られるものの、昨年度の結果を上回っている。市の平均を上回る項目も少しずつ増えており、引き続き、授業におけるタブレット端末の効果的な活用方法について、情報交換と改善を図っていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・児童の主体的な学びを促せるよう、児童一人一人の理解度や到達度を基に授業形態や個別支援の工夫を行うとともに、基本的な学習内容の定着と活用力の向上の双方を意識した各教科の授業構成や単元展開の工夫を図る。
- ・児童の学びを次の学習に繋げ生かす学習サイクルを確立できるよう、単元を見通した各時間の授業構成や展開の工夫を図る。また、話し合い活動を全教科、領域で日常的に行って友達から学ぶよさを実感できるようにするとともに、課題設定を工夫し、児童の学びを広げたり深めたりできるようにする。
- ・家庭学習について、①（個に応じた）必須の課題、②自主学習の二本立てを継続する。①で基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化を図るとともに、②で学習の計画を立てたり個々に目標をもたせたりすることで、各学年の発達段階で求められる知識や技能を生かす学びの調整力と、一人一人の学習意欲の向上を図れるようにする。
- ・一人1台端末の使用について、各教科の単元や領域の中に活用場面や活用方法等を確実に位置付け、効果的な活用を推進し、児童の学力向上が図れるようにする。